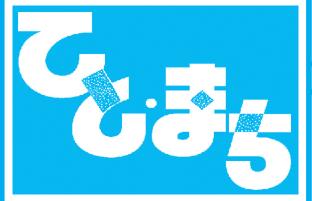
特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社



## Contents

- P2 ソーシャル・ジャスティス基金
- P4 「新宿 NPO ネットワーク協議会」の活動紹介 市民シンクタンクひと・まち社第11回総会案内

2012年2月25日発行(季刊)

特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社 〒 160-0021 新宿区歌舞伎町 2-19-13 ASK ビル 601 TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202

E-mail npo@hitomachi.org URL: http://www.hitomachi.org 郵便振替口座 00170-6-410791 市民シンクタンクひと・まち社

## 来るべきコミュニティへの予兆

柏木博(デザイン評論家)

『来るべきコミュニティへの予兆――変化への知恵 はあるのか』と題したセミナーを、3月13日にヴィラ・ フォンテーヌ汐留で開催します。これは、2011年度 から12年度にかけて、公益財団法人ハイライフ研究 所における「コミュニティ」をテーマにした研究成果 の発表とディスカッションです。

市場経済圏の外にある本来の社会を形成している 「コミュニティ」は、さまざまな問題を解決していく知 恵を持っていたはずです。そうした「コミュニティ」の 存在が、それとなく希薄となってきた現在、あらためて 「来るべきコミュニティ」の姿を考えてみようという内容 です。参加者たちの間での問題意識の共有と、新たな 問題への可能性を探ることができればと考えています。

セミナーは、2部で構成されています。第1部は「ケ アを軸としたコミュニティづくり」(長沼行太郎)、「コ ミュニティに果たすアートとまつりの役割!(大竹誠)、 「非常時(紛争と災害) から考えるコミュニティ再生」(伊 藤剛)、「過去との比較によるコミュニティ論」(柏木博) といった発表が行われます。第2部は、池田敦子さん をゲストに、パネルディスカッションになります。

この研究活動の発端は、1970年代に出版された 『人間都市』(別冊都市住宅 No.1 鹿島出版会) に見ら



れる未来にむかっての 提言を、振り返り、現 在もその提言は有効性 を持っているのだろう か、という問題をテー マに、友田修(環境計 画研究所)を中心にし て研究をはじめたこと

にあります。

1960年代末から70年代にかけての時代は、ひ たすら拡大、肥大する市場経済とそれを促進する巨大 な技術の開発が、結局のところ豊かな生活を実現する どころか、人々を危機に追いやるのではないかという 認識が広がっていきました。その結果、多様な文化を 持ったコミュニティがそれぞれ特色を持ち、かつ開か れた地域社会を生み出していくべきことを提案した『人 間都市』のような未来にむかっての提言が次々になさ れました。

同時代に刊行された『ホール・アース・カタログ』も また、人々が巨大な技術や肥大化した市場経済から距 離をおいて、わたしたちが自立して生活し、また新た なコミュニティの可能を提案するものでした。

こうした提案は、その後、忘れ去られていきました。 そうした中にあって、昨年3月11日に、予期せぬ災害 が起きました。地震、津波に続く、巨大な技術である 原発のメルトダウンという不幸な事態が引き起こされ ました。その結果、さかんに「絆」という標語が繰り 返し語られることになりました。

要約すれば、コミュニティの持つ知恵や力の必要性 にあらためて気づいたということです。それでは、70 年前後に語られた提案はいまも有効なのでしょうか。

■ タイトル 第 22 回ハイライフセミナー

「来たるべきコミュニティへの予兆」

変化への知恵はあるのか

- 開催日時 2012 年 3 月 13 日 (火) 14:00 ~ 17:30(予定)
- 参加費 無料
- 開催場所 ヴィラフォンテーヌ汐留ホール
- 問 合 せ 市民シンクタンクひと・まち社 03-3204-4342